

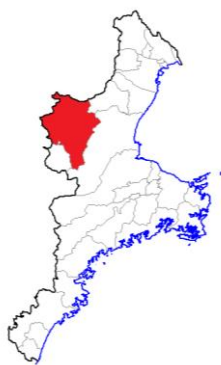
活動内容：竹林・里山整備による地域振興の推進

団体名：伊賀^{い が}の里山整備・利用を考えるグループ

活動タイプ

活動場所：三重県伊賀市^{みえけん い が し}

○	地域環境保全 (里山林保全)
○	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)
	森林資源利用
	森林機能強化
○	教育・研修活動



活動の内容

活動の経緯

伊賀市^{い が し}の旧大山田村・青山町^{おおやまだむら あおやまちょう}地区においては、以前は林業が盛んであったが、木材価格の低迷、林業就業者の減少と高齢化等社会環境の変化に伴い、台風による風倒木被害地の放置、竹の侵入、間伐遅れの林分の増加等による森林の荒廃・劣化が著しい。

このような状況の中、三重大学社会連携研究センター・伊賀研究拠点では、伊賀市のバイオマスタウン構想を実現させるために、森林・里山整備等についてのテーマで調査・研究を進めていた。

平成 25 年に入り、地域の有志から森林・里山づくりについて、伊賀研究拠点に相談があり、大学と地域住民の協働によって成り立つ新たな組織である同グループを立ち上げ、里山再生に取り組むことになった。

祠までの道を整備（地域環境保全タイプ 里山林保全）

雑草木の刈払い、集積・処理を行い、山桜や紅葉などの植林をしている。このほか、秋葉神社の祠が急斜面の山頂にあるにあるため、階段や散策路の整備をしている。

伐採竹を資源として活用

（地域環境保全タイプ 侵入竹除去・竹林整備）

伐採した竹を搬出して燻煙竹、竹炭に加工するなど、竹の利活用方法について組織の構成員が知恵を出し合っている。



▲散策路整備の風景

森林についての正しい理解を広げるための森林体験・学習（教育・研修活動タイプ）

森林の持つ多面的機能を一般市民に PR するとともに、森林の正しい知識を身につけ、これからの森林づくりに活かしていけるように、多種・多様な講師を招いて、森林体験・学習の活動を行っている。

自然観察指導員による植物や昆虫の生態などの話のほか、森や近くの川辺での生き物観察や、竹炭づくりの体験教室なども実施している。

森林体験・学習の取り組みは年間4回、季節にあわせたプログラムを作成している（夏：竹林伐採と竹工作、秋：伐採広葉樹（ほだ木）への菌うち、冬：竹炭づくりなど）。各回親子で20-30名程度集まる。



▲親子対象の森林体験・学習の風景

活動状況・成果

子どもたちのための自然体験の場の創出

勝地^{かちじ}の里山は雑木の間伐が進み、山頂の祠までの階段づくりや泉の整備を行った。坂下の竹林は間伐が進み、明るい林ができてきた。その結果、地元の子供たちの自然体験の機会や場を創出できた。竹の活用方法については苦労しているが、地元（伊賀市）の竹灯幽玄祭の灯籠など、様々な取り組みにおける工作材料などに活用している。



▲坂下地区の竹林伐採の状況

特徴的な取り組み

大学と地域の連携

三重大学社会連携研究センター・伊賀研究拠点では、伊賀市のバイオマスタウン構想の実現として、森林・里山整備等についてのテーマで調査・研究を進めていた。地域から森林・里山づくりについて、伊賀研究拠点に相談があり、新しく組織を立ち上げて共同で里山再生に取り組んでいる。例えば、生産した竹炭の水質浄化機能などの調査・研究は、伊賀研究拠点で行っている。

成功を生んだポイント

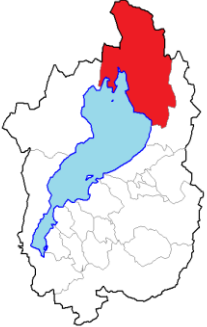
地元の人たちの話に耳を傾け、どういう地域にしたいかという想いをくみ取り、これからの森づくりや森林管理に反映していくことで、地元の方々の活動への理解を得ている。

伐採した竹については、竹炭づくりや竹灯籠づくり、地元の祭りなどへ出展したりもしている。また森林体験学習での竹工作などでも活用している。

大学と地域の連携により、森林から生まれる資源の利活用方策を検討し、里山再生を通じて地域活性化につなげることを目指している。

活動内容：豊かな生態系を次の世代に引き継ぐための森を活用した環境教育

団体名：^{やまかどすいげん もり}山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会

活動タイプ		活動場所： ^{しがけんながはまし} 滋賀県長浜市	
	地域環境保全 (里山林保全)		
	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)		
	森林資源利用		
	森林機能強化		
○	教育・研修活動		

活動の内容

活動の経緯

^{やまかどすいげん もり}山門水源の森は、かつてゴルフ場予定地として開発の危機にさらされていたが、バブルの崩壊で計画は消滅。平成 8 年には滋賀県が買収、公有化して保安林に指定されている。

薪炭林として昭和 36 年ごろまで活用されてきた森は、その後の社会変化とともに放置され、身近な植物が減少していた。そのため、先人が汗して造りあげた山門水源の森の生態系を取り戻すことを目指して、平成 13 年に「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」が設立された。本交付金は平成 25 年から活用している。



▲山門水源の森の風景

森を守る活動を次世代に引き継ぐための森林教育活動（教育・研修活動タイプ）

森の生態系を「次の世代に引き継ぐ」ことを目標として、地域の小中学校を対象として、森を活用した環境教育活動のために本交付金を活用している。

対象地である山門の森周辺の小中学校では、子どもたちを対象として森を活かした環境教育がカリキュラム化されている。そのため、学年を上がるごとに段階を追って、森での活動に参加し、森での活動についての理解を深めている。

落枝拾いや獣害防止テープの巻付け、樹木の根を守るための作業道への木質チップ撒き作業などの他、木を切るところから炭焼きの一連の過程を体験する取り組みも実施している。



▲子どもたちが参加しての間伐材の玉切り作業

活動状況・成果

小中学校との協力による将来に向けた人材の育成

近隣の小中学校が、森林・環境教育活動の一環として、森林の保全活動に参加している。東京や岐阜などから修学旅行生の受け入れもおこなっている。

大人数名では時間がかかる作業であっても、子どもたちが何十人、何百人と参加することにより、労力の観点から非常に有効な成果をもたらしている。落枝拾いや獣害防止テープなど、子どもたちが参加する作業が、希少な林床植物の保護など、この地域の森の生物多様性保護につながっている。

小中学校生徒の対象森林に対する理解が深まっている。活動に参加する子どもたちの目が非常に生き生きとするようになった。

すでに何百人と、森についての活動を経験した子供たちを送り出している。いつか、そのうち何人かが戻ってくれば、森を守る活動が次世代に引き継がれていくことが期待できる。



▲樹木に悪影響を及ぼさないように、道に露出した樹根を保護する木質チップ敷設作業



▲森林を守るため、獣害防止テープの巻き付けを行っている

特徴的な取り組み

経験豊富なスタッフを活用した安全性の確保

子どもたちが参加することから、何よりも安全対策が重要であった。多くの子どもたちが参加する中で、安全に活動を行うようにするためには、相応の数のスタッフが必要であった。

教育・研修活動タイプでは指導のための資格が必要となっているが、資格と経験の双方を有するスタッフは多くない。そのため、資格を持つスタッフに加えて、経験豊富なスタッフが補助員として参加することで、子どもたちの活動の安全性を確保している。

成功を生んだポイント

地域の小中学校と協力して、森における環境教育活動をカリキュラム化することにより、森を守るための活動を活性化させるとともに、次世代を担う子どもたちの森についての理解を深めている。

子どもたちが参加し続けるためには、安全性の確保が最も重要である。地域の子どもたちが安全に作業できるように、経験豊富なスタッフが参加して安全性の確保に特に配慮することで、継続的に子どもたちが参加できる体制が形づくられている。

活動対象地は県有林であり、県の委託を受ける形で整備を行っている。また、滋賀県、長浜市、地元の生産森林組合と本活動組織の4者で、山門水源の森の保全の施策や課題の検討など、定期的な話し合いを行っている。

活動内容：市と地元住民協力のもと、森林整備・地域活性化を推進

団体名：^{きょうたんご}京丹後木の駅実行委員会

活動タイプ		活動場所： ^{きょうとふきょうたんごし} 京都府京丹後市	
○	地域環境保全 (里山林保全)		
	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)		
	森林資源利用		
	森林機能強化		
○	教育・研修活動		

活動の内容

活動の経緯

京丹後木の駅プロジェクトは、林地残材や間伐材を有効に活用して森林整備を進めるとともに、木材の出荷者にはその対価として地域通貨である“モリ券”を発行し、^{きょうたんごし}京丹後市内の登録店舗で利用してもらうことで、地域の商店街の活性化を目指す取り組みである。

平成 24 年 7 月に設立された実行委員会には京丹後市の他、森林組合や NPO などが参加している。

実行委員会の一員である市から本交付金のことを知り、木の駅の取り組みへの参加を増やし、既に出荷登録されている方々の整備意欲の増進につなげることを目指して、平成 25 年から活用している。

森林整備が地域を活性化させる（地域環境保全タイプ）

交付金は、森林整備や木材を出荷するための日当として活用している。これにより、これまで山林を管理していなかった土地所有者の一部も、山に入るようになり、市内の山林の管理が進展した。

木材の出荷者には、地域通貨を発行している。地域通貨が地元の商店街（地域通貨登録店舗は 102 店舗）で使われることで、地域経済の活性化につながっている。



▲「みんなで作業(志材搬出)」の風景

森林整備のための講習会の実施（教育・研修活動タイプ）

森林整備作業を行うために最低限必要な知識と技能の習得を目的にチェーンソー講習会を開催し、実際の伐採作業や伐採木の選定方法等を基礎から学ぶ機会を設けている。



▲利用される地域通貨

活動状況・成果

商店の数とその状況

地域通貨を利用することのできる木の駅登録店舗数は102店舗となっている。登録店舗は、地域の個人商店などの小売り店舗で、半分以上が食料品系である。そのほか、ガソリンスタンド、薬局、機械、工具金物屋、釣具店など、幅広い範囲をカバーしている。



▲木の駅登録店舗にのぼり設置

木の駅プロジェクトによる木材出荷量

年度	出荷量	備考
平成 24 年度	84t	木材受入期間 1 ヶ月の試行段階
平成 25 年度	159t	木材受入期間 4 ヶ月間
平成 26 年度	237t(77t)	木材を通年受入
平成 27 年度	189t(73t)	平成 27 年 12 月末現在

※カッコ内は本交付金を用いることで実現した出荷量

特徴的な取り組み

森林整備と木材利用の資源利用の流れの構築

市内の公共温泉施設などを搬出される木材の利用先として確保することにより、資源利用の流れを構築することに成功している。現在、交付金の多くは森林整備等の日当として用いているが、搬出した木材の引き取り手を確保することにより、本交付金終了後も活動が継続できるようにする体制が形作られつつある。



成功を生んだポイント

交付金を日当として活用することで、木の駅プロジェクトへの参加者を増やすことに成功した。さらに、木材の消費先を確保して、資源利用の流れを構築することに成功している。また、地元の商店街が参加する地域通貨の仕組みによって、森林整備と地域振興の好循環が実現している。

京丹後市は京丹後度木の駅実行委員会の事務局を務めており、間接的に交付金の活動に関わっている。事務局で年2～3回木の駅通信を発行し、全戸配布することで、活動内容の普及啓発を図っている。

活動内容：地域と外部の協力関係によって実現した良好な森林整備

団体名：こうわ もり 河和の森 保全の会

活動タイプ

活動場所：わかやまけん はしもとし 和歌山県橋本市

○

地域環境保全
(里山林保全)

○

地域環境保全
(侵入竹・竹林整備)

○

森林資源利用

森林機能強化

○

教育・研修活動



活動の内容

活動の経緯

もともとは大阪でシイタケづくりなどをする団体であり、林業そのものについては特に取り組みを行っていたわけではなかった。だが、団体関係者の知人が和歌山県で土地を取得。その土地は 30 年間放置されていた森林であり、うっそうとした暗い森で、人が入り込むことができないような状態となっていた。そのため、平成 26 年から本交付金を活用して里山林整備を行うことにしたところ、地元からも熱烈的な応援を受けることになった。

装備品の充実による安全確保(地域環境保全タイプ)

里山林保全では、下草刈り、枝打ち、間伐を実施。竹林除去でも間伐を行っている。

当初は、ササが大量に繁茂し、木を切ろうとしても、ツルが巻きついていてどうしようもないような状態だったが、下草刈りや間伐などで、林内に光が入り、林の中が見通せるような状態にまでなった。

交付金の利用については、安全な作業ができるようにチェーンソーや刈払機等の装備品を整えることに重点を置いている。

拠点となる休憩場所は自作

作業の拠点となる休憩場所は、伐採した竹や木材を利用して自作している。



▲安全な作業のために装備品をそろえる



▲伐採した竹などで自作した休憩場所

活動状況・成果

地域景観の改善と下層植生の復活

かつての対象地の森林は、鬱蒼としていてあまり近寄りたがりたくないと感じる雰囲気であったが、森が整備されることで、近隣の景観も向上し、森の沿道を歩くのが地元の人たちにとっても楽しみとなっているという。

明るい森林に生育するササユリなどの下層植生が復活している。



▲森林整備によって復活したササユリ

特徴的な取り組み

地域との良好な関係が生み出す活発な活動

和歌山県が対象となる活動場所であるが、活動組織はもともと大阪府内の団体である。

そのため、地域協議会からのアドバイスもあり、地元住民との交流に力を入れている。地元の川の清掃やお祭りにも参加している。

該当の地域は、棚田の保全などの取り組みが行われている場所であるが、そうした地域の棚田保全の取り組みと連携し、ともに作業を行いながら、地域全体の環境改善に寄与している。

たとえば、棚田のうち、放置されて森林化していた箇所についても、本交付金の対象外ではあったが整備を行っている。

このように地元住民と密接な関係を築いたこともあり、地元からの評価は非常に高い。



▲活動組織のメンバーが地元の清掃活動にも参加



▲地元住民と外部からの参加者が密接な協力のもと作業を行っている。

成功を生んだポイント

地元の清掃活動やお祭りに参加するなど、地元住民と密接な協力関係を築くことにより、地元住民からも支持を受けて効果的な活動を行うことができています。

地元の人間と外部の人間がともに森に関する作業を行うことで、交流が生まれ、コミュニティの活性化につながっている。

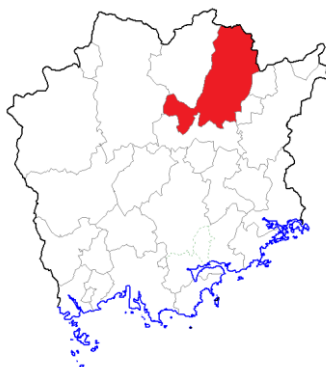
活動内容： 古代の歴史を体験できる里山

団体名：NPO 法人 倭文の郷

活動タイプ

活動場所：岡山県津山市

○	地域環境保全 (里山林保全)
○	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)
○	森林資源利用
	森林機能強化
○	教育・研修活動



活動の内容

活動の経緯

昭和 50 年代に久米地区にゴルフ場が開発された際に、ゴルフ場周辺の山林を開発企業が買い取り、体験型宿泊施設が整備された。一帯には、国内でも最古級の製鉄跡地や 120 基に及ぶ古墳などの史跡が点在していたが、ゴルフ場周辺の山林はその後 50 年近く放置されたため、低木やつる植物が密生するなど荒廃が進み、史跡へのアクセスも困難な状態にあった。こうしたことから、平成 26 年に市の体験型活動施設の指定管理者となった NPO 法人倭文の郷では、そこを活動拠点に、本交付金を利用して密生した樹木の伐採や下草刈り払い等の作業に取り組んでいる。そのほかに、歴史・文化資源を活かした農体験や環境学習などの幅広いプログラムを企画・実施している。

薪炭林として利用されていた頃の里山景観を再生（地域環境保全タイプ）

放置されて密生状態にあった樹木や竹を伐採して、かつて薪炭林として利用されていた頃の明るい里山景観の再生に取り組んでいる。

里山の恵みを五感で味わう（森林資源利用タイプ）

伐採木を活用してシイタケの原木栽培している。また、林内に自生するキノコ類や山菜などの里山の恵みを活かして山菜採りツアー（春季）や、キノコ鑑定会（秋季）などの食をテーマとした取り組みを実施している。



▲檜皮茸の技術を構成に継承するため、ヒノキ林の保全にも取り組む

豊かな自然と歴史を活かした体験プログラムの実施（教育・研修活動タイプ）

再生した里山を活かして、月 1～2 回のペースで様々な体験型の取り組みを実施している。様々な年齢・層の団体の受け入れを行っていることを聞いた他地域の団体等が継続して利用するケースなど、岡山県外からの参加者も増加傾向にある。津山市の交流事業の一環で、東日本大震災の被害を受けた福島県内の子ども達を受け入れ、里山体験を行うなどの取り組みも行っている。

活動状況・成果

照度 50%の明るい里山の再生

久米地区の約 10ha の森林の再生に取り組んでいる。作業に携わる中核メンバーは 15 名前後おり、そのほとんどが 60 代以上。

これまでに延長約 3km の歩道を整備し、歩道周囲の樹木や竹林の伐採や下草刈り等を行った。活動範囲内には古代の製鉄施設跡や古墳などが点在しており、今後は、これらの史跡を活かした体験プログラムの展開も期待されている。



▲密生した竹林の伐採

里山の再生と一体的に行う多様な活動

地元の小学生等を対象にした自然体験や環境学習などを実施。また、^{しとりちいき}倭文地域にある築 160 年の古民家を活かした田舎体験のほか、農作業体験、スケッチ教室、古代の織物づくり、火起こし体験、土器づくりなど、参加者の年齢層やニーズに応じた幅広い体験プログラムを実施している。



▲現場での安全講習も定期的を実施



▲子ども対象の昆虫観察会

特徴的な取り組み

年間を通じて多様な里山体験プログラムを提供

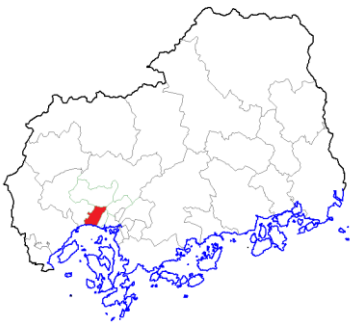
古代の史跡を多く抱え、伝統的な農的景観を有する久米地区の特徴を活かして、自然観察や農林業体験、食育など、多岐にわたる分野・視点から幅広い年齢層やニーズに応じた体験型プログラムを企画・実施している。

成功を生んだポイント

本交付金の採択を受ける以前から、久米地区の自然環境や歴史・文化を活かした各種プログラムの企画・運営の経験があり、里山をテーマにした体験型プログラムの受け入れ体制を有していた。また、津山市の体験型宿泊施設の管理者として、当該体験型宿泊施設を拠点にして、資機材の保管場所や様々な森林体験プログラムの提供や団体利用の受け入れ対応が可能な環境にあった。

活動内容： 里山の再生を通じて地域の魅力を向上

団体名：美鈴恵みの森づくり

活動タイプ		活動場所：広島県広島市
	地域環境保全 (里山林保全)	 
○	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)	
○	森林資源利用	
○	森林機能強化	
○	教育・研修活動	

活動の内容

活動の経緯

広島市佐伯区的美鈴が丘団地（約 3,300 世帯が居住）の三方を取り囲むように連なる丘陵は、かつては薪炭やマツタケなどを得る里山として日常的に利用されていたが、昭和 40 年代後半に団地造成が始まった頃から放置され荒廃が進んでいた。こうしたなか、美鈴が丘団地の住民有志が中心となって平成 20 年に「美鈴恵みの森づくり」を発足させ、身近な森林に触れ親しみ、自然の恵みを実感できる場づくりに精力的に取り組む。本交付金を活用した活動は平成 25 年度から実施している。

竹林管理を継続して実施（地域環境保全タイプ）

竹林の拡大を抑制するために、密生した竹や伐採跡地の若竹の伐採を 5 か所（計約 3ha）で継続して実施。伐採跡地では植樹のほか、親子等を対象とした筍掘りなどを開催。

遊歩道と作業道を一体的に整備（森林機能強化タイプ）

来年整備する予定の森林に通じる作業道の整備を平成 27 年に実施した。活動地の丘陵の稜線上からは町内や遠くは瀬戸内海、海に浮かぶ宮島「寝観音」を眺望できる地点が含まれることから、遊歩道のコースとしても利用予定。



▲作業道と遊歩道を一体的に整備

森の恵みを実感できる体験型の活動等の開催

（森林資源利用タイプ、教育研修タイプ）

伐採した材の一部は木炭や椎茸の原木として活用している。また、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象にした体験型の森林学習会を年間通じて企画・開催し、身近な里山の大切さや豊かさに共感できる仲間づくりに取り組んでいる。

活動状況・成果

道づくりを通じて身近な里山に触れ親しむ環境づくり

傾斜地や稜線などの地形を活かして、これまでに延長約 2.5km の遊歩道と作業道が整備されている。遊歩道沿いには街並みを一望できる場所が所々に設けられているほか、作業の過程で再発見されたミツバツツジやホオなどの樹木が遊歩道の魅力を高める資源となっている。作業道の整備に際しては、遊歩道としての利用も考慮したコース設定を行っている。子どもや女性、高齢者の利用も考慮して起伏の少ないコースが設定されたことで、地域住民が散策等で日常的に森を利用する機会が増えている。



▲遊歩道沿いには、市内の街並みだけでなく、遠く瀬戸内海や厳島神社も一望できる眺望ポイントを整備

里山の恵みを実感し、里山を愛する仲間を増やす取組

里山の恵みを活かした筍掘り、炭焼き、椎茸の駒打ち、自然観察などの体験型の森林学習会を概ね月 1 回のペースで開催。この他に平成 27 年度は、身近な里山に対する興味・関心を喚起するため、交付金の活動とは別に、伐採竹を使ったそうめん流し、縄文式火起こし体験、ホオの花鑑賞会、“のろし”リレー、夜の被爆ピアノコンサート等の活動を 10 回開催し、平均して 20 名以上、最大で 230 名の参加があるなど、身近な里山の魅力や価値を地域で共有するための活動の開催を通じて里山のファンや里山の保全活動の担い手の確保を目指している。



▲自治体との連携で開催した“のろし”リレー

安全管理の徹底

チェーンソー、刈払機、バックホウ等の動力機械を初めて使うスタッフには、事前講習を実施しているほか、傷害保険の加入を行っている。また、作業前には機器の安全点検や、稼働場所の状況確認を行うなど、安全確保には細心の注意が払われている。

特徴的な取り組み

楽しみながら地域の魅力を高める取組

竹林伐採や作業道整備などの作業や、再生した里山を活用した体験型プログラムは、「美鈴が丘団地や周辺地域の住民が身近な里山に触れ親しみ、交流する場をつくる」という共通目標のもとで実施されている。また、各作業や活動は、どうすれば参加者が「楽しく作業・体験しながら、里山の魅力や価値に共感できるか」という点を意識して運営されており、そのことが個々の作業や活動そのものの魅力の向上にもつながっていると考えられる。

成功を生んだポイント

竹林の伐採や作業道の整備などの里山の基盤づくりと併行して、里山の恵みを活かした多様な体験型プログラムの企画・実施を通じて、子どもから高齢者に到るまで幅広い層の地域住民の興味・関心を喚起し、里山の魅力や価値に共感する仲間を増やす工夫がされている。

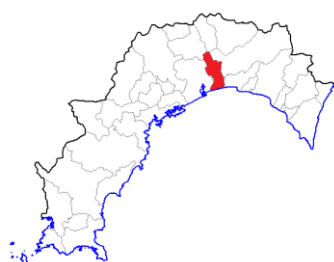
活動内容：放置竹林解消の広がりが生み出す地域の活性化

団体名：白木谷ゆめクラブ

活動タイプ

活動場所：高知県南国市

	地域環境保全 (里山林整備)
○	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)
	森林資源利用
	森林機能強化
	教育・研修活動



活動の内容

交付金を取得しようとした経緯

竹林整備を行い、地域の活性化と良質なタケノコを作ることができる環境を上げたいと考え、平成 23 年に同クラブを立ち上げた。放置竹林を借り受け、整備をはじめたものの、竹林整備作業を行うための燃料費や人件費を確保できなければ活動を広げていくことは難しい、活動は 2 年目にして継続の危機となった。その折に、ゆめクラブ立ち上げをはじめ協力体制にある南国市農林水産課から平成 25 年に連絡があり、迷わず本交付金を申請した。最初の申請の際には市の助言を得ながら申請を行った。

竹林整備による地域特産品としてのタケノコづくり

タケノコづくりを行う環境づくりを目的とした竹林整備を行っている。モウソウチクの他に、地域特産の秋に生えるタケノコ、四方竹を栽培している。枯竹、古竹の間伐を行うことで、竹林に日の光が入るようになり、良質なタケノコがしやすい環境づくりが実現している。

この他、竹粉碎機械（チップパー）などを活用して、伐採した竹を竹チップや竹パウダーなどに加工し、土壌改良材として販売も行うなど、タケノコ以外の竹資源も活用している。



▲日の光が入るようになった竹林



▲竹粉碎機なども活用されている

活動状況・成果

タケノコ販売で放置竹林がお金を生み出す

生産したタケノコは、乾燥タケノコに加工して、地域の道の駅等で販売している。

また、乾燥タケノコについて、飲食チェーン店と契約を結び、その店舗で利用してもらえるようになった。

多くの店舗で、長期間提供したいという要望に対して資源の安定供給および資源量の確保が課題となっている。

このようなタケノコ資源の活用によって、地域の雇用が生まれるという好循環が今後期待できる。



▲干しタケノコづくりは地域で行う

実際の活動現場をモデルとして広がる活動の輪

実際に竹林整備が行われた現場を見ることで、これまで放置竹林となっていた土地を持つ土地所有者からも、竹林整備の依頼が来るようになっていく。

交付金を得て人件費を使えるようになったことで、参加者が増えている。参加者が増えることで、作業ができる面積も増えるという好循環が生じている。



▲竹林整備で仲間の輪が広がる

特徴的な取り組み

安全性を確保する作業道の整備

竹林内の作業道を整備することで、搬出等の作業の安全性が増すとともに、作業に参加しやすくなった。参加者確保や作業の能率性の確保の上でも作業道が役立っている。

ヘルメット着用の上で、笛も装備して作業を行っているが、実際に活動を行う場合、チップパーなどを動かしていると、機械の音のために、笛の音が聞こえないという問題が生じることがある。以前、伐採した竹が下の作業者に当たり軽傷者が出たこともあり、上で作業をしている際には、その下で作業を行わないように注意している。上で作業している者は下を確認し、下で作業している者は上を確認する二重のチェックを徹底している。

県との協力が生み出した新たな販路

地域の活動をよく知る高知県が、過疎化対策などの公益に寄与する商品を求める企業との仲介を行うことで、同クラブと飲食チェーン店との契約が実現した。

成功を生んだポイント

県との協力により、企業とのマッチングが実現し、本活動による産品であるタケノコの販売先が確保されることになった。

本交付金を活用して人件費を確保することにより、作業に参加する参加者が増え、作業できる面積が広がっている。さらに、実際に整備された竹林を見て、それまで無関心だった土地所有者も整備を希望するようになるなど、交付金が出発点となって竹林整備の輪が広がる好循環が実現している。

日頃より市との関係が深く、いち早く交付金の情報を入手し、最初の申請に当たっては助言を受けるなど、情報面などでの協力関係があることが成功のカギとなっている。

活動内容：50 年前の里山を再生

団体名：こんごうさん 金剛山もととり保全協議会

活動タイプ		活動場所： ふくおかけんのおがたし 福岡県直方市
○	地域環境保全 (里山林保全)	 
○	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)	
	森林資源利用	
	森林機能強化	
	教育・研修活動	

活動の内容

活動の経緯

のおがたし 直方市の北東端に位置する金剛山こんごうさんの山麓はかつて山林開拓が行われ、柿やみかん等が生産されていた。バブル期にはゴルフ場開発が計画されたが頓挫し、その跡地に市の産業団地が整備されたものの、周辺の山林は 50 年近く放置され荒廃が進んでいた。こうしたなか、平成 17 年に市が策定した環境保全全行動計画で金剛山山麓が里山保全の重点地域となったことを契機に保全の機運が高まった。平成 22 年には、市内の関係 12 団体等で構成する「金剛山もととり保全協議会」が設立され、12ha の市有林を対象に保全活動が行われており、平成 25 年から本交付金を活用している。約 250 名いる会員の多くは定年退職者や婦人会員で構成されている。

50 年前の里山の自然・景観の再生（地域環境保全タイプ）

活動目標は「放置される以前の里山の再生」。地域に本来ある植生の回復が重要であるため、活動地周辺の樹木を種子から育成する等の取組も実施。当初は全域にわたって木竹やつる植物が繁茂して人の立ち入りも困難な状態だった。週 2 回、年間のべ 80 回超に及ぶ作業を通じて、作業道の設置や、樹木や竹等の伐採等を行い、明るい里山景観の再生を進めている。発生する間伐材や竹材はチップperを用いて破碎処理するほか、木炭やチップとして販売するなど有効活用に取り組んでいる。



▲チップper導入によりモウソウチクの処理効率が格段に向上

活動状況・成果

里山再生の過程で地域の文化資源を再発見

平成 25 年度より本交付金の支援を受けて集中的に間伐・伐採作業を行ったことで、タブやスギ等の常緑樹や竹が密生する状態は徐々に解消されている。また、平成 26 年度の交付金で購入したチッ

パーの導入後は伐採木竹の現場内処理が可能となり、少人数で効率良い作業が可能となった。

林床に陽の光が差し込む明るい里山景観が回復する過程で、50年前の開拓時代に造成された石積みの段々畑やクリ林等が再発見された。明るくなった林床ではラン科の希少な山野草も確認されるなど、様々な地域資源の再発見があった。間伐した木材は木炭やチップに加工して販売しているほか、間伐したモウソウチクを竹炭に加工して、遠賀川の水質浄化に取り組む NPO に寄贈する等の活動も行っている。

森を地域共有の財産として継承する取組

作業の過程で再発見された石積みの段々畑や希少種の山野草などの地域資源を活かして、自然観察会やエコツアーなどのプログラムづくりを近隣の学校や地域住民等との連携で企画・実施している。また、森へのアプローチ部に、挿し木により約 2,500 本のアジサイを育成している。平成 27 年度は開花時期にあわせて一般公開を行ったところ、複数の新聞に掲載されたほか、1 ヶ月間で約 1 万人の来場者があった。特に市外からの来訪者に向けた里山保全活動の PR に繋がった。



▲50 年前の石垣づくりの段々畑が再び姿を現した。

安全管理の徹底

チェーンソーや刈払機の作業参加者は、事前に安全講習に参加し、保険をかけたメンバーに限定している。作業開始前には安全確認のミーティングを行い、安全作業の徹底を図っている。チェーンソーや刈払機等の機材使用時には、下肢を保護するスネ当てや、滑落防止用のスパイク付き安全靴を装着するほか、作業時には安全を確認する監視者を置いている。危険な作業があった場合には、事後にその状況・原因、必要な安全対策を検証するなど会員間で安全管理の意識の共有を図っている。



▲里山散策ウォーキング風景

特徴的な取り組み

年間 80 回に及ぶきめ細かな作業

現在、週 2 回実施している作業には概ね 15 名前後の会員が参加している。気温が高い 7～9 月については週 1 回にペースを落として作業を実施。年間のべ 80 回超に及ぶ地道な作業により、対象森林 12ha のうち年間 7～8ha の維持管理が可能となっている。

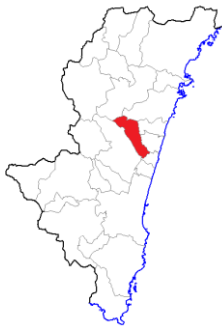
成功を生んだポイント

交付金を利用してチップパー等の機材を導入したことで、少人数でも効率的に作業を進められるようになった。また、作業で使うノコギリやチェーンソー等の機材類をこまめにメンテナンスする会員がおり、常にベストの状態で機材類が使える状態を維持していることも作業効率の向上に繋がっている。

敷地内には作業メンバーの活動拠点（廃材等を利用して自費で作成した作業小屋）があり、作業の進捗状況や申し送り事項、ヒヤリハット情報の共有や安全確認を行う場となっている。作業に参加する 15 名前後の会員はチームワークが良く、個々人の得手・不得手な分野や、プライバシーに配慮した個々人の健康状態などが相互に共有できていることもあり、作業分担がスムーズに行うことができています。

活動内容：地域活性化をもたらす森林整備と攻めの鳥獣被害防止対策

団体名：^{だとも}駄留地区鳥獣被害対策協議会

活動タイプ		活動場所： ^{みやざきけん きじょうちょう} 宮崎県木城町
○	地域環境保全 (里山林保全)	 
○	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)	
	森林資源利用	
	森林機能強化	
○	教育・研修活動	

活動の内容

交付金を取得しようとした経緯

国有林をはじめとする近隣の森林が整備されず、サル、シカ、イノシシによる鳥獣害被害が深刻化していた。このため、^{だともちく}駄留地区鳥獣被害対策協議会では、平成 23 年度より、鳥獣被害対策を本格的に実施するようになり、県のモデル事業となった。その縁で、県の担当者からの紹介により、平成 26 年より本交付金を活用することになった。

鳥獣害被害防止のための森林・竹林整備（地域環境保全タイプ）

活動内容は、鳥獣害被害防止のための緩衝地帯の整備である。里山林整備タイプでは林道を作り、山を活用するための除伐や枝打ちを実施している。また、下草刈りなど地域の里山景観を作っていくための作業を行っている。また、竹林整備では、間引きや古い竹の整理、玉切りなどを実施している。切った竹は、竹灯籠を作るなど、地域の活動の際に活用している。



▲森林整備が鳥獣害防止につながる



▲切った竹灯籠など地域の活動で活用

活動状況・成果



▲捕獲されたシカ

国有林も含めた広範囲の森林整備

近隣に国有林があるが、これまであまり人が入っておらず、ほとんど整備がなされていなかった。だが、交付金を取得することで、活動の範囲が面的に広がった。もともとは民有林のみを対象としており、国有林（保安林）はほとんど手を入れていなかったが、県の仲介により、国有林（13.4ha）も契約を結んで整備の対象とすることになった。

この結果、あまり人のはいることのなかった森が、人が入ることができる森になりつつある。

森林整備を進めることで実現した「攻めの」鳥獣害対策

かつての獣害対策では、林縁部のみの整備であった。また、来た動物を追い払うだけの守りの対策しかできなかった。しかし、交付金により、森林を整備し、森全体を含めた広い範囲での取り組みを行うことができるようになったことで、鳥獣被害防止対策が大きく進展することになった。

特徴的な取り組み

薪ストーブによって活性化した地域コミュニティ

交付金を用いて、薪ストーブを購入し、活動拠点に設置した。これにより、活動拠点が集落の集会所として機能している。活動拠点において、高齢者や婦人会など、集落から人が集まり、それぞれができることを話し合うことで、活動の範囲が広がるとともに、地域のコミュニティの活性化が実現している。集落の回覧板等で参加を募っているが、参加を募らずとも参加を希望する声が寄せられるほどであるという。



日当によって広がる活動、深まる関係

交付金を使って人件費を出すことにより、参加者を広げることに寄与している。また、日当の関係があるおかげで、お互いに遠慮なくものを言いあえる関係ができあがっており、それが交流を進めるうえでも大きく寄与している。

▲購入した薪ストーブが人を集め、様々なアイデアが生み出されていく

成功を生んだポイント

本交付金を用いて購入した薪ストーブにより、地域住民間の交流が活発化し、森林整備活動への地域住民の参加が広がっている。その際、高齢者や婦人会など、様々な立場の人が参加することにより、様々なアイデアが生まれ、活発な活動を行うことができるようになっている。

県との協力で、地元の森林管理署とふれあいの森の協定を結び、国有林も整備対象に加えることができるようになった。これにより、整備できる森林の範囲が広がり、鳥獣害被害対策も大きく進展することとなった。

活動内容：地域の観光地や農村風景と調和した竹林整備で地域を元気にする

団体名：^{ちらんちょう}知覧町たけのこ振興会

活動タイプ

^{かごしまけんみなみきゅうしゅうし}
活動場所：鹿児島県南九州市

	地域環境保全 (里山林保全)
○	地域環境保全 (侵入竹・竹林整備)
	森林資源利用
	森林機能強化
	教育・研修活動



活動の内容

申請の経緯

^{みなみきゅうしゅうしちらんちょう}
南九州市知覧町は「薩摩の小京都」と呼ばれ、江戸時代の町並みが残る知覧武家屋敷郡（国指定歴史的建造物）など恵まれた自然や歴史を背景にした観光施設があり、多くの観光客が訪れている。

しかし、幹線道路の沿線や農村公園の周辺には、侵入竹が繁茂し、景観を損ねている箇所が見受けられた。そのため、景観や生活環境の保全および竹林資源の活用等を目的に知覧町たけのこ振興会は平成 19 年より県の補助事業を導入し竹林整備を行ってきた。市は事務の支援で参加している。

しかし、竹林の成長は早く、整備から数年が経過している竹林において、立ち枯れや新たに成長した竹の再整備が必要となった。だが、県の補助金では、すでに整備した竹林を対象とすることができない。そのため、平成 26 年から本交付金を活用して、竹林整備を行うことを目指した。

地域景観と調和することを目指した竹林整備と竹の利用 (地域環境保全タイプ)

本交付金を活用することで、過去に整備したことがあるものの、再び荒れてしまった竹林を整備している。

地域を代表する観光地である知覧武家屋敷群周辺の竹林などのような観光客の目に触れやすい場所や、地域住民の憩いの場となっている農村公園周辺などの場所を対象に整備を行っている。いずれは武家屋敷群と合わせて観光資源とできるように、散歩できる竹林を目指している。



▲将来的には散歩できる竹林を目指して整備

活動状況・成果

観光地の価値を高める美しい景観づくり

整備された竹林は、武家屋敷や農村風景と見事に調和し、美しい景観を望むことができるようになり、観光客や周辺の方々から大変に喜ばれている。

周辺の観光資源である武家屋敷や農村風景と調和する竹林整備を行うことで、竹林整備の対象地における観光地としての価値を高めている。景観を守るだけでなく、いずれは竹林も含めて観光コース化することを目指している。

また、整備後は、おいしいタケノコが多くとれるようになり、竹林所有者からも喜ばれている。



▲武家屋敷を竹灯籠で飾る

資源としての竹の利用

竹を様々な活用して地域活性化に役立てている。

刈った竹で竹灯籠をつくり、それを武家屋敷群で飾るイベントに利用する取り組みを行っている。

また、刈った竹の一部は、障がい者福祉団体等に提供された後、竹ぼうきにして販売されている。

この他、チップパーによって作った竹チップは近隣の農家に肥料として利用されているほか、刈った竹の一部はバイオマス発電所の燃料としても活用されている。



▲地域住民等により竹ぼうきも作られている

特徴的な取り組み

参加者を増やすための配慮

いつも参加しているメンバーは4人ほどだが、一般の社会人の参加も得られるように、平日だけでなく土曜日も活動日として設定している。さらに、参加者の募集にあたっては、地域の60歳以上の集まりにおいて声をかけるなど、取り組みを拡げるための配慮を行っている。

また、遠方にいる地主に配慮して、活動を行う前と後に、活動を実施する旨と活動が終わった旨を伝える郵便を出している。



▲市の職員などの支援を受けながら取組を行っている

市との協力関係

基本的な書類作成は活動組織で行っているが、市の職員が事務面での助言など支援を行っている。

また、市に寄せられた竹林整備に関する要望については、知覧町たけのこ振興会に情報提供が行われ、本交付金や県の事業など、利用可能な資金を活用しつつ、市内の竹林整備が進められている。

成功を生んだポイント

観光地である武家屋敷群周辺での作業であり、武家屋敷や農村風景と見事に調和した美しい景観づくりを目指すことで、地域の観光地としての好感度を高めることに寄与している。

市が事務面での助言を行うことにより、円滑な交付金の申請等が可能となっている。また、竹林整備の要望について、市と情報共有を行うことで活動の広がりにつなげている。

平成 27 年度活動事例集にご協力いただいた活動組織の皆様の関連 web サイト

本事例集に掲載されている活動組織の取り組みについて、より詳しく知りたい方は、以下の Web サイトをご覧ください。

一部、ホームページのない活動組織もございます。ご了承ください。

No	団体名	Web サイトの URL アドレス
1	紫波地区里山林保全活動実践協力会	
2	権現森自然研究会	http://members2.jcom.home.ne.jp/7929exho/
3	ニツ井宝の森林（やま）プロジェクト	
4	桜山きづきの森	http://www.kiduki-no-mori.net/
5	あきる野菅生の森づくり協議会	http://sugaomori.main.jp/sugaomori/index.html
6	狭山丘陵の森レスキュー隊	
7	NPO 法人 三浦半島生物多様性保全	http://mbcn-m.com/hp/
8	NPO 法人 竹林救援隊	http://www.geocities.jp/tikurininkyuuenntai/00index.htm
9	麻機自然体験コミュニティ「Balance」	https://www.facebook.com/BalanceAsahata/
10	特定非営利活動法人 海上の森の会	http://kaishonomori.com/
11	伊賀の里山整備・利用を考えるグループ	http://www.iga.mie-u.ac.jp/a4seminakennkyuu.html
12	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/
13	京丹後木の駅実行委員会	http://www.facebook.com/263603787149010
14	河和の森 保全の会	
15	NPO 法人倭文の郷	http://www.sitorinosato.jp/
16	美鈴恵みの森づくり	http://misuzunomori.jugem.jp/
17	白木谷ゆめクラブ	http://sirakitani-yumeclub.webnode.jp/
18	金剛山もととり保全協議会	
19	駄留地区鳥獣被害対策協議会	
20	知覧町たけのこ振興会	